

## 歯学部でキャリア・ジェンダーに関する講義を行いました

日時 令和元年5月8日(水) 2・3限目  
対象 歯学部2年生 51名  
講師 佐賀大学医学部医学科  
生体構造機能学講座  
組織・神経解剖学分野・教授  
城戸 瑞穂先生

歯学部では、きらめきプロジェクト発足から9年間、プロジェクトの歯科部門統括責任者としてご尽力頂いた城戸瑞穂先生を佐賀大学よりお招きし、キャリア・ジェンダーに関する講義を行いました。



### 【歯学部学生の感想(抜粋)】

- \* 歯科医師はただ町の歯医者さんというイメージがあったが、それが覆され多様な働き方があることを教えていただき非常にためになった。投票でアンケートを取りながら授業を進めていて楽しかった。女性の働き方にもっと多様なものが求められている。出産や育児でとても忙しく職場に迷惑をかけてしまう等のネガティブな考えを持ってしまうことが問題であると思う。一人一人が助け合いの意思を持って仕事に取り組んでいくことが大切であり、そういう考えが人生を楽しむことに近づくと思う。
- \* 大学卒業後の進路や、歯科の現状、先生の今までの経験など講演を通してでないとなかなか聞けない話や自分では思いつかないような考えを聞くことができるいい機会になりました。また、城戸先生が女性で医学部の教授としてバリバリ活躍されているのが本当にすごいと思いました！私も先生のように、いろんな人とかかわりをもって、自分のやりたいことを納得のいくまでやれるようになりたいと強く思いました。
- \* 先ほど男女平等ではなくそれぞれの強みをを活かせる歯科界にしたいと書いたが、性別による偏見はなくなるべきだと感じた。男性だけの思考だと見えてこない部分が、女性がいることで見えてくるのだろう。だから、男性だからできて女性だからできないという偏見はなくなるべきで、そうなれば女性も働きやすくなり、医学の研究もより捗るだろうと思った。そしてそういった社会を作っていくことが、我々のようなこれから医療に携わる者の使命なのだろう。

# きらめき通信 vol.51

2019年7月(隔月発行予定)

## 医学部でキャリア・ジェンダーに関する講義を行いました

日時 平成31年4月25日 3・4限目  
対象 医学部2年生 125名  
講師 九州大学  
持続可能な社会のための  
決断科学センター  
准教授 錦谷 まりこ先生

医学部2年生を対象に、持続可能な社会のための決断科学センターでジェンダー学や社会医学について研究されている錦谷まりこ先生に、キャリア・ジェンダーに関する講義をしていただきました。

### 【医学部学生の感想(抜粋)】

- \* これまで男女平等という言葉は何度も聞いてきたので、男女の違いをなるべく意識しないようにしなければならぬというように感じていた。しかし、今回の授業の中で、男女の性差はまぎれもなく存在するものであり、むしろその違いを正しく認識することで、適切に行動していくことが大切だと感じた。
- \* 男性と女性の性差は私たちが日常的に見える、感じられること以外にも様々あり、言われてみればこういう所も違うなと思うことを講義の中でたくさん見つけることができました。また、こういった性差は甚大にそもそも備わっていることだけでなく、社会的要因もとても大きいので、国によって大きく異なることを知り、とても興味深かったです。
- \* 日本の女性は、世界的に見れば比較的恵まれている方だと聞いて少し驚いた。それでも賃金の問題など様々な問題が残っていると思うので、令和の時代は女性ももっと活躍する時代になって欲しい。



九州大学病院

きらめきプロジェクトキャリア支援センター

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL・FAX: 092-642-5203

E-MAIL: kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

URL: <https://www.kyudai-kirameki.com/>



HP

## 日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクター（医師2名）を紹介します。

### ❖自己紹介❖

きらめきプロジェクト2年目、内科医師。夫、幼児2人の4人家族。

### ❖所属まで❖

初期研修終了後、市中病院勤務中に第一子を、大学院在学中に第二子を出産しました。大学院復学後、仕事、大学院の研究、家庭の両立を目指していましたが、子供の度重なる病気などでなかなか研究は進まず、子供たちが落ち着いた頃には今度は自分自身が体調を崩してしまい、研究だけでなく生活までままなくなりました。これを期に、今の自分の現状、自分の弱さを受け入れて、自分のペースで今できること、今しかできないことをやっていこうと考えるようになり、一旦大学院を休学し、非常勤医師として働くことを選択しました。



### ❖所属してから❖

午前中、大学病院、市中病院で専門外来を担当させていただきました。午後は家庭、育児とゆとりをもって生活することができ、慌ただしい日々ではありますが、子供とのかけがえのない時間を過ごし、子供の成長をそばで見つめることができました。

### ❖今年度の目標❖

時間に余裕ができた分、専門分野の勉強等に取り組む予定でしたが、なかなか気持ちを集中させることができず、昨年度はあまり進みませんでした。生活にも慣れ、ゆとりも出てきたため、今年度は医師として専門的な力を磨くことを目標に努力しようと思っています。

### ❖最後に❖

たくさんの先生、スタッフの方々のサポートのおかげで医師として働き、経験を積むことができました。今後医療に貢献することは言うまでもありませんが、出産、育児にかかわらず、働き方、キャリア・スキルアップに悩んでいる方々に、自身の経験を生かし少しでも力になることで、ご恩を返していけたらと思います。



卒後15年目の眼科医師です。眼科専門医試験後大学院に進学し、子供を2人出産しました。その後主人のアメリカでの研究留学に同行、3年半後に復学し、医学博士号を取得しました。それから育児・仕事の両立を考えきらめきプロジェクトに応募、現在2年目になります。

アメリカでは子供が小さかった（渡航当時1歳と2歳半）こともあり専業主婦生活を送りました。始めは仕事ができないことからくる葛藤（世の中の役になってない(?)など)があったり、友人もおらず慣れない英語に苦しんだり辛いこともありましたが、段々と向こうでの生活にも慣れ、楽しい日々を過ごすことができました。そこで私が住んでいた地域の幼稚園・小学校の送迎事情・昼食の日本との違いについて触れてみたいと思います。

まずはアメリカでは幼稚園に子供が通う際、基本的に親・もしくはシッターさんなどの送迎です。いずれの幼稚園にもバスはありませんでした。そこで先生から直接子供の様子を聞くのはリスニングの上達に役立った?かもしれません。そしてうちは小学校進学前に帰国しましたが、公立小学校にはスクールバスがあるものの、私立ではやはり送迎のようでした。

次にランチですが、こちらもお弁当。とはいっても子供たちのランチバックにはりんご、ブロッコリー、ベビーキャロットなどがジップロックに生のまま入っていたのは衝撃でした。なので手間いらず。お弁当箱を洗うことはありません。一方小学校ではカフェテリアでBUYランチといって、好きなものをとる方式で昼食をとっていたようでした。

日本では幼稚園は基本的にバスがあり、小学校も徒歩で行く子供が多く、基本的に給食なので幾分楽でしょうか。うちは子供たちを私立の幼稚園、小学校（敷地が同じ）に通わせており、送迎バスはありますが時間が異なって大変なのでアメリカ方式で送迎しています。長男はお弁当です。大変なこともあります。車の中で会話したり、時には宿題もさせたり出来るので我が家にとっては貴重な時間といえます。きらめきに所属できたおかげで限られた就業時間ですが専門性を保って大学病院で仕事することができ、充実して毎日過ごすことが出来ています。



今では懐かしい思い出です😊